

課題検討会議（仮称）の振り返り

1. 概要

- ・開催日時：令和6年9月27日（金）18時から20時まで
- ・開催場所：目黒区総合庁舎本館1階 D会議室
- ・課題テーマ：「ヘルパー不足が及ぼす影響について」

・参加者：

	区分	氏名（敬称略）	事業所等名称	備考
1	相談支援部会員	谷津 宣之	たんぼの会相談支援	事例提供者
2	相談支援部会員	駒井 由起子	いきいき福祉ネットワークセンター	相談支援部会長
3	相談支援部会員	大野 祐希	相談支援カプリエル	
4	移動支援事業所	大岡 仁	訪問介護ナイスケア	
5	移動支援事業所	池田 謙吾	はぎ介護センター	
6	就労継続支援B型事業所	壬生 竜	目黒区立かみよん工房	
7	放課後等デイサービス事業所	深町 優	アトリエほんちょう	
8	区職員	石田 賀洋子	障害者支援課知的障害者相談係	
9	区職員	田所 佳子	障害者支援課精神障害福祉・難病係	
10	区職員	櫻庭 可奈子	障害施策推進課	
11	事務局	水野 雄貴	障害施策推進課計画推進係	
12	事務局	渡邊 純	障害施策推進課計画推進係	
13	事務局	蓮井 美希	障害施策推進課計画推進係	
14	事務局	岡村 真理子	目黒区基幹相談支援センター	
15	事務局	小野寺 亜純	目黒区基幹相談支援センター	
16	オブザーバー（オンライン参加）	北本 佳子	目黒区障害者自立支援協議会 副会長	

- ・会議の流れ：
  1. 目黒区障害者自立支援協議会についての概要  
 これまでの協議会の体制及び今後の見直しについて
  2. 相談支援部会から事例と地域課題の解決策についての説明
  3. 意見交換  
 理想的な解決策、その代替策及び本会議で議論すべき視点について
  4. 意見交換の振り返りと本会議に向けて

- ・会議の様子：



## 2. 要因ごとの意見交換の内容

### (1) 要因1 「マンパワー不足」

- ・ヘルパーの空き状況の共有がされるとよい。
- ・利用者に適切なヘルパー（性別や年齢など）のマッチングが困難である。
- ・ヘルパーの職の認知度向上を図るため、副業としてあっせんする。これについては、事業所レベルでの対応が難しいため、目黒区、教育関係機関、民間企業等との連携を図るべきである。

### (2) 要因2 「ニーズの集中、頻度の課題」

- ・現在の目黒区では例外的な取扱いとなるグループ支援（ヘルパーが複数人の移動を支援すること）については、制度化できれば支援の幅を広げられると思うが、その必要性については各事業所の意向など情報収集が必要である。
- ・自事業所から遠いエリアからのヘルパー派遣の依頼は受けづらい。

### (3) 要因3 「制度の問題」

- ・ヘルパー事業における単価のうち「身体介助なし」の短時間の単価が特に低い。
- ・ヘルパー事業にも初回加算を設けることが望ましい。
- ・ヘルパー事業における目黒区独自加算の新設
- ・ヘルパーが支援を行うために移動する時間をサービス提供時間に含める。
- ・通所先からの送迎バスを降りた後、バス停目の前のショートステイ先までの極めて短い時間についてヘルパーを派遣したことがあるが、施設・事業者間の地域の関係性でヘルパーを利用しない対応ができないか。
- ・以前は通所事業所とヘルパー事業所で送迎時間を調整していたが、現在は、送迎時間の変更が事前調整なく行われるため、ヘルパーの調整に苦慮している。

### (4) 要因4 「代替社会資源が少ない」

- ・区立施設の利用者が利用できる「日中一時支援」の取組について、民間事業所においても同様の取組ができないか検討の余地があるのではないか。
- ・「ヘルパー不足」という障害福祉の課題を民間企業に理解してもらい、民間企業で持つ資源を活用し、分野を超えて検討が行われると良い。

### (5) 要因5 「事例本人の課題」

自立支援協議会の場においては、地域課題について検討を行うため、要因5については割愛

## 地域課題解決策検討シート

課題テーマ	「ヘルパー不足が及ぼす影響について」 障害当事者が社会参加や通学等において介助を必要とする場合に、ヘルパーが不足していることにより支援を十分に行うことが困難になっている。
-------	--

### 1 要因ごとに理想とされる解決策について

- ・ 要因1 「マンパワー不足」
  - ➡地域のニーズに対応したヘルパーの確保
- ・ 要因2 「ニーズの集中、頻度の問題」
  - ➡ヘルパーが複数人の移動支援を行う「グループ支援」の制度化
- ・ 要因3 「制度の問題」
  - ➡ヘルパーの処遇改善（報酬額の見直しや区独自加算の創設）
- ・ 要因4 「代替社会資源が少ない」
  - ➡ヘルパーに代わる社会資源の再確認

### 2 課題解決に向けて

#### (1) 今後の取組の方向性

「ヘルパー不足」という地域課題に対して、次期障害者計画への反映を念頭に各事業者、行政その他の関係機関とともに一体となって取り組むべき施策の実現に向け、費用対効果等の観点から真に効果的な取組であるか分析するため、まずは根拠となるデータや地域のニーズについて、実態把握をする必要がある。

については、施策や事業の具体化に向けて、情報収集・研究を行うとともに、課題検討会議等の場で継続的に検討を進めていくべきと考える。

#### (2) 本会議で意見交換いただきたい内容

下記の下線部について、委員の皆様の日頃の活動やご経験から目黒区内のどのような社会資源を活用して取組を進めていく必要があるかご意見をお願いします。

#### 要因1 「マンパワー不足」

##### 地域のニーズに対応したヘルパーの確保について

(意見交換内容の例示)

- ・ ヘルパーを効率的に派遣する方法（事業所間のヘルパーの空き状況の共有等）
- ・ ヘルパーの職の認知度向上に向けた周知・PR方法（どこで誰に対してどのような方法で）

#### 要因2「ニーズの集中、頻度の問題」

ヘルパーが複数人の移動支援を行う「グループ支援」の制度化について

(意見交換内容の例示)

- ・ヘルパー事業所への情報収集の内容（グループ支援で対応できる当事者の外出の機会は、ヘルパー事業全体のどの程度の割合を占めるか等）

#### 要因3「制度の問題」

ヘルパーの処遇改善（報酬額の見直しや区独自加算の創設）について

(意見交換内容の例示)

- ・処遇改善を重点的に行う区分（身体介護の有無や短時間の派遣など）

#### 要因4「代替社会資源が少ない」

ヘルパーに代わる社会資源の再確認について

(意見交換内容の例示)

- ・ボランティアや学生のサークル活動等への働きかけ方法
- ・障害福祉の分野に捉われない他機関との連携（民間企業との協働に向けた関係性の構築等）